

# ナツヤスミ・ニ・テン・ゼロ



1991年夏。世界陸上の東京大会。  
カール・ルイスは9秒86の世界新記録で、100メートル決勝の  
ゴールを駆け抜けた。

あの頃、青い空はどこまでも青く、すいかは真っ赤で、  
かぶと虫の背中黒く深く、つややかに光っていた。

時は過ぎて、2007年夏。  
勤め人となった自分は、毎日、スタートともゴールとも  
つかない地点をひた走っている。

ひよっとしたら、大きくコースを外れてしまったのかもしれない。  
気がついたら、「ライフプランセミナー」なんて講座に迷い込んでいた。

そう、気がついたら、ここに居たのだ…。

世渡り上手に見えて、実は意外と苦労人のアナタに贈る、  
擦りむいたヒザのままで走り抜けた、ある「ナツヤスミ」の物語。

作・・・木村史子  
(mingle with the common man)

演出・・・羽田野真男

出演・・・さとうえみ  
Qui-Ta  
稲葉谷美穂  
宮島ひろ子  
堀真幸  
近藤淳  
石井隆平  
あいざわりわ

舞台美術・・・江平朝子  
(欲深企画)

照明・・・すずきこた  
(演劇デザインギルド)

音響・・・羽田野真男

衣裳・・・小島みのり

舞台監督・・・木内鉄也

小道具・・・矢野克典

制作・・・欲深企画

太田尾暁子

2008年2月2日(土) 15:00/19:00

3日(日) 13:00/17:00

ウディシアター中目黒【東急東横線 日比谷線 中目黒駅 徒歩8分】

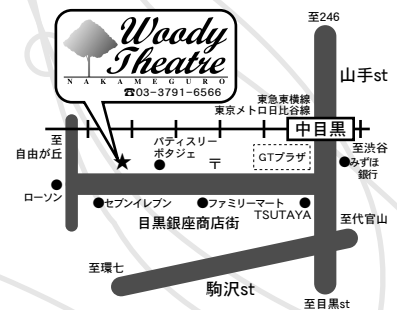
前売2000円/当日2300円【全席自由/先着順入場】

【チケット予約/お問い合わせ】

東京あたふた Tel:090-2655-0903, URL:http://www2u.biglobe.ne.jp/~atafta/

※当日の受付開始は開演45分前、開場は開演30分前となります。

演出の都合上、開演後の入場はお断りすることがあります。予め御了承下さい。  
また、小学3年生以下の方の入場はご遠慮下さい。



七月

二人の高校生の少年らが反響い倉田屋  
の奥で話していました。

『モチマルは良かったよ。』

『モチマルははずだあって良かったよ。』

『モチマルは数IIで良かったよ。』

『モチマルははずだあって良かったよ。』

上の方や横の方は、白くくらく水晶の  
ように見えます。そのなめらかな内壁を、

つぶつぶチェリオの泡が流れて行きます

『モチマルは良かったよ。』

『モチマルははずだあって良かったよ。』

『それならなせモチマルは良かったの。』

『知らない。』

つぶつぶチェリオの泡が流れて行きます

す。高校生の少年らもほっほっほと

つぶつぶ五粒泡を吐きました。それは

ゆれながら水銀のように光って斜に軋む

木戸の方へただよって行きました。

つうと銀いろの頭をひるがえして、

バラキが店の前を過ぎて行きました。

二人はまるで声も出さず居すくまっ

てしまいました。

バラキが入ってきました。

『セブンスター。』

『2000円です。』

『お前から早く帰れよ。』

『はい。』

時間の網が、底の白いガラスの上で美

しくゆらゆらのびたりちぢんだりしまし

た。チェリオからは記憶の泡が、並んで

立ちました。

私の幻燈はこれでおしまいであります。

\* 二〇〇七年秋 演出家

注解

(一) 倉田屋 K県東部の雑貨商。学舎に隣接し生徒

相手の駄菓子・飲料販売も手掛ける。

(二) モチマル 不祥。発言内容から数学教師かとも

いわれるが、「モチマルレイコール」「高校生」

とどるのは無意味だ。

(三) バラキ 演出家は理不尽な校則に批判的

であった。ここでは校則を重視する生徒指導教師

東京あたふた 東京都立大学（現首都大学東京）劇団時計において1990年から94年にかけて活動した、羽田野真男（演出）と Qui-Ta（脚本/出演）が中心となって95年に結成した社会人劇団。人間が生きていることの滑稽さ哀しさ、たくましさを描くコメディを主に上演している。仕事を持つ社会人が活動できることを前提に、息の長い活動と質の高い芝居作りを目指す。そのため頻繁に公演を重ねるのではなく、各公演に最低半年の準備期間を設け、ほぼ年一回の公演を行っている。11回目を迎える今回は、第8回公演『タライの中の水』で好評を博した木村史子の新作書き下ろしを上演。不条理にして暑苦しく、かつ切ない世界を描く。

